

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 24113：地球観測衛星網の構築（文部科学省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 21 日 17：00～17：30
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 共用第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、白石議員、奥村議員、本庶議員、青木議員
外部専門家 14 名（うち若手 5 名）
- 4 説明者：宇宙開発利用課長 佐伯浩課長、同課宇宙利用推進室 松浦重和室長
- 5 施策概要

我が国の環境・エネルギー大国戦略により推進されるグリーン・イノベーション施策の効果を全球的に検証する手段を確保する観点から、地球観測衛星網を構築し、森林・植生、水循環等を宇宙から広域、迅速、高精度に把握し、世界の環境監視を先導する。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

グリーン・イノベーション領域での予算要求の範囲だが、衛星の打ち上げそのものは、この範疇ではないのではないかと。観測体制の整備およびその利用について重点を置いて欲しい。グリーン・イノベーションの中では、打ち上げ済みの衛星をどのように活用するか、が主になるのではないかと。この観点から考えると、「我が国の宇宙技術の世界展開」については全体像なので、今回の議論から外し、戦略 1～3 のうちの 2「ニーズに対応した宇宙システム / アプリの提供」が浮き彫りになるようにしていただく方が議論しやすいのだが。

【文部科学省】

現在運用中の衛星を活用してグリーン・イノベーションに貢献したい。しかし、衛星の打ち上げについても、グリーン・イノベーションに貢献するので、一部と捉えていただきたい。衛星データも長期間継続的に観測することで効果を発揮する。

【相澤議員】

目標、目的が IPCC への貢献になっているが、観測技術をグリーン・イノベーションに活用することが重要だ。グリーン・イノベーションとしての位置づけが不明確だ。

【文部科学省】

アクションプランでも指摘されたことで、全くその通りだと考えている。IPCC への貢献だけでなく、漁業、気象予報、防災に役立ち、産業などへの波及効果も高いと考えている。

【奥村議員】

予算の半分はアプリケーションである。システムとアプリケーションの一体的開発について、これまでの実績と具体的なアプリケーションについてお聞きしたい。

【文部科学省】

衛星データの利用が増えたのは、ALOS のデータが定常的に出てきたことが画期になったと思う。高次処理された付加価値の高いデータはまだ少なく、衛星データの利用はそれほど進んでいない。今後は高次処理されたデータがより重要になってくるであろう。

衛星の運用経費には、データの処理まで含まれている。パキスタン洪水でも、国際機関からデータ提供の要請が来ており、活用されている。

【外部専門家】

ALOS のデータが国際的に活用されているのは評価できるが、グリーン・イノベーションの観点では、社会インフラのグリーン化という課題がある。社会の幅広いニーズから考えていただきたい。

【文部科学省】

ハザードマップなど、途上国で役立っているものもある。

【外部専門家】

JAXA の中で、ハードでなく、社会的ニーズに対応したソフトに関する研究はどれくらい進んでいるのか。例えば GOSAT においてセンサー開発を国立環境研究所が分担していたように、ソフト部分は外部委託とし、JAXA は打ち上げに特化したほうが良いのではないか。

【文部科学省】

そこは難しいところで、開発のための開発にならないように心がけたい、と考えている。そのためには、利用者側と共に走りながら考えていくことが必要であり、利用ニーズを把握するために、一部は必要と考えている。

【外部専門家】

打ち上げは JAXA の専売となっているだけに、JAXA が本当に我が国のニーズを的確にとらえているのか、気になっている。

【文部科学省】

肝に銘じて頑張っていきたい。

【相澤議員】

グリーン・イノベーションで衛星が必要であるという論法なら分かるが、結局いつまでも打ち上げ中心の計画に見えてしまう。基本的な姿勢の転換を心していただきたい。

以上